



10月号より連載されている**佐藤智充副院長著述の連載(全6回)の第4回目**です。
赤十字の成り立ちから現在まで、これを読めばあなたも赤十字通！！

戦争と災害と赤十字

第4回 国内における赤十字

日本赤十字社は1877年(明治10年)に設立された博愛社が前身となっている。

1886年に日本政府がジュネーブ条約に加入したことにより、その翌年の1887年に博愛社から日本赤十字社に名称が変更され、赤十字国際委員会から承認された。博愛社は1877年2月に発生した西南戦争の折に佐野常民(さの つねたみ)と大給恒(おぎゅう ゆずる)の元老院議員によって設立された救護団体であり、西南戦争における明治政府軍と薩摩軍の両軍の多数の死傷者を救護するために作られた。

両氏は政府に対して救護団体博愛社の設立を願い出たものの、現地には医師も派遣していることから医療が足りていることや、新しい組織を作って戦地に送ると混乱をきたす、このような組織の創設は平和な時に十分な時間をかけて検討すべきなどという理由から認められなかった。

その決定を行ったのが先のNHK大河ドラマ「西郷どん」でも度々出演していた西郷隆盛の実弟である西郷従道であった。(因みに西郷隆盛の写真は存在していないが、多くの国民が目にしたことのある西郷隆盛の肖像画はイタリアの画家であるエドアルド・キヨッソーネが西郷隆盛と似ている西郷従道をモデルとして描いたと言われている。)しかし戦場では実際に多数の負傷兵が手当てされず放置されており、征討総督である有栖川宮熾仁親王(ありすがわのみやたるひとしんのう)に博愛社の設立を嘆願¹⁾し、博愛社の活動が許可された。その嘆願を行った場所が日赤記念館である「ジェーンズ邸」であり、大変残念なことに先の熊本地震で倒壊してしまった。救護活動の許可を得た博愛社の救護員は直ちに熊本に急行し政府軍・薩摩軍両軍の傷病者の救護にあたったのが赤十字社の始まりである。(因みに・・・鉄腕アトムやブラックジャックで有名な医師でもあり漫画家の手塚治虫の曾祖父手塚良仙は西南戦争に軍医として従軍し、赤痢によって明治10年10月10日に長崎陸軍病院で死去された)

そのため日本における赤十字の始まりは熊本県とされ、まさに博愛社の設立を嘆願した場所であるジェーンズ邸が発祥の地とされる。



1) 日本赤十字社本社会議室401号室に掲げられる博愛社設立嘆願の絵(作者不明。手前の頭を下げて礼をしているのが佐野常民。奥の人物が有栖川宮熾仁親王とされる)



日赤記念館(熊本市)



創立100周年を迎えるに当たり、日本赤十字社本社により記念行事の一つとして建立された日赤創立記念百周年記念碑であるモニュメント「愛の手とこしえに」(日赤記念館)

先だっの熊本地震では熊本城の石垣や城の倒壊のニュースは記憶に新しいが、熊本城肥後熊本藩主である細川藩の子孫が現在の日本赤十字社の近衛忠輝（このえ ただてる）社長である。出生時の名前は細川護輝（ほそかわ もりてる）であり、後に近衛家の養子となった。近衛社長は第34・38・39代内閣総理大臣である近衛文麿の孫であり、兄は第79代内閣総理大臣の細川護熙（ほそかわ もりひろ）である。近衛社長は国際赤十字・赤新月社連盟の会長でもある。常人とは一線も二線も画した華麗なる一族のご出身であるが、1964年に日本赤十字社に一社員として入社して以来、約50年以上にわたり赤十字一筋で国内外の事業に従事され、世界中の紛争地や被災地に真っ先に駆けつけてリーダーシップを発揮された。さらに・・・近衛社長の誕生日はアンリ・デュナンの誕生日と同じく、国際赤十字デーでもある5月8日であることも何の因果であろうか・・・。

話しが前後したが、西南戦争が終わり、1887年に博愛社から日本赤十字社に名称が変更された翌年の1888年7月には磐梯山が噴火し、国内初の災害救護を行うこととなる。

その後も1894年の日清戦争救護や1899年には博愛丸・弘済丸などの病院船の完成、1904年の日露戦争救護など戦時救護活動を行った。さらには1914年からの第一次世界大戦、1931年の満州事変、1937年7月からの日華事変から第二次世界大戦終結までの救護活動など、戦争の歴史には常に赤十字が存在していた。

戦時救護以外にも前述した磐梯山噴火の他、1923年の関東大震災は勿論の事、記憶に新しいのは、1985年8月の群馬県御巢鷹山の日航ジャンボ機墜落事故に対しても救護班を派遣。1993年7月には北海道南西沖地震、1995年1月の阪神・淡路大震災、2000年6月の三宅島噴火、2004年10月の新潟県中越地震、同12月のスマトラ島沖地震・津波、2007年3月の能登半島地震、同7月の新潟県中越沖地震、2008年6月の岩手・宮城内陸地震、2011年3月の東日本大震災から熊本地震や西日本豪雨災害、その直後の北海道地震に至るまでほとんどすべての災害に対して救護活動を実施し、現在、日本赤十字社は日本銀行、日本放送協会（NHK）と共に災害対策基本法に条文化された指定公共機関として、災害医療の先頭に立って活動を行っている。。

今回は現代における災害救護についてである。

文責 佐藤智充

～ 筆者プロフィール ～



小野田赤十字病院

副院長 佐藤 智充（さとう ともみつ）

1970年、山口県生まれ

2004年、山口大学大学院先端分子応用医科学講座

診療科：外科

専門医資格等：日本外科学会外科専門医

マンモグラフィ読影認定医

がん治療認定機構がん治療認定医

感染制御医（ICD）

災害医療コーディネーター